

「漁師たちを弟子にする」

2023年02月03日

これを見たシモン・ペトロは、イエスの膝元にひれ伏して、「主よ、私から離れてください。私は罪深い人間です」と言った。とれた魚にシモンも一緒にいた者も皆驚いたからである。シモンの仲間、ゼベダイの子ヤコブとヨハネも同様だった。すると、イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」そこで、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。(ルカ福音書5:8～11)

群衆が主イエスから神の言葉を聞きたいと、押し寄せて来た時、主イエスはゲネサレト(ガリラヤ)湖のほとりに立っておられた。岸に二艘の舟があり、漁師たちは舟から上がって、網を洗っていた。主イエスは、そのうちのシモン(ペトロ)の舟に乗り込み、陸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして、腰を下ろして、舟の上から群衆に教えられた。この光景はしばしば見られた。多くの群衆が押し寄せて来たので、押しつぶされ、話すことができない。舟に乗って、群衆から少しの距離をおけば、人々に向かって話すことができる。ガリラヤでは、これほどの群衆に囲まれていたのである。

主イエスは群衆に語り終えた。人々は主イエスの教えに勇気を与えられ、満足したのであろう、散会した。主イエスはシモンに、「沖へ漕ぎ出し、網を降ろして漁をしなさい」と言われた。シモンは、「先生、私たちは夜通し働きましたが、何も捕れませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」と答えた。ゲネサレト湖の漁は、夜行う。シモンたちは、夜っぴて漁をしたけれども、魚は捕れなかった。落胆し、疲れ切った体で、次の漁のために網を洗っていた。プロの漁師が昨夜は捕れなかったので、「網を降ろして漁をしなさい」と言われても、同意する訳にはいかない矜持があったはずである。ところが、シモンは、「お言葉ですから、網を降ろしましょう」と応じている。舟の上で語られる主イエスの教えに、ひどく感銘を受けたので、この人の言うことに応えてみようと思ったのではないか。沖に漕ぎ出し、網を降ろしてみると、おびただしい魚がかかり、網が破れそうになった。そこで、もう一艘の舟にいた仲間合図して、加勢に来るように頼んだ。彼らが来て、網を引き揚げると、魚が二艘の舟にいっぱいになり、沈みそうになった。これを見たシモン・ペトロは主イエスの前にひれ伏して、「主よ、私から離れてください。私は罪深い人間です」と言った。ペトロは何も罪を犯していない。しかし、ペトロは主イエスに「聖なるもの」を見て、自分の罪深さにおののいたのである。

預言者イザヤは、玉座に主が座っておられるのを見、更に、天使セラフィムが「聖なるかな、万軍の主の栄光は全地に満ちる」という賛美の声を上げながら、飛び交うのを見た。この時、イザヤは「ああ、災いだ。私は汚れた唇の者 / 私は汚れた唇の民の中に住む者」と、自分の罪におののき、叫んでいる。神との出会いは自分の罪に震えることである。

ペトロは、主イエスに聖なる神を見て、「罪深い者です」と告白している。仲間のゼベダイの子ヤコブとヨハネも同様だった。主イエスはひれ伏すペトロに、「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になるのだ」と言って、弟子にされた。ペトロの主イエスに「聖なるもの」を見た経験が弟子としての生涯を送る決定的な契機となった。彼は、幾多のつまづきもあったが、主イエスの赦しの中に置かれ、命を賭して福音を宣教する使徒として用いられる光栄に与っている。